

平成 28 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		部課コード	820300	TEL	2923-2396
事業コード	学力向上推進事業	担当部課	教育センター		
820301		グループ	研修・研究		
開始年度	平成14 年度	→	終了年度	年度	

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託＋附加			根拠法令	
	分野別計画・指針	教育振興基本計画(国・県)			学習指導要領	
	関連・類似事業	資質向上事業				
	総合計画の体系	章	教育・文化・スポーツ	節	学校教育	基本方針
事業開始の背景	児童・生徒が変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力の向上が求められている。基礎・基本を確実に定着させ、それらを活用して思考力・判断力・表現力等を向上させるためには、教員の資質向上と教員への人的支援が必要である。					

③事業の内容	目的(どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)				
	児童・生徒の学力向上のために、言語活動を充実するなかで基礎・基本の習得とそれらを活用して問題解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を図る研修会の開催や授業を充実させるための人的支援を行う。				
	対象(誰を、何を対象としているのか)	対象数	単位	平成 26 年度	1,350 ¹ 人
	市内小・中学校教職員			平成 27 年度	1,324 ¹ 人
事業の具体的な内容及び実施方法					
<p>①学び創造プランの研究委託校の校内研修をサポートし、学校課題に応じた学力向上のための研修を実施する。</p> <p>②今日的な教育課題である道徳や小学校外国語活動、その他の教科等における指導力向上のための研修会を実施する。</p> <p>・全国学力・学習状況調査を活用した授業づくり研修会 11/24(木) ・わかる授業づくり研修会 1/11(水) ・外国語活動授業づくり研修会 10/7(金)</p> <p>・道徳の時間授業づくり研修会 1/18(水) ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり研修会 11/15(火) ・国語授業づくり研修会 10/28(火)</p> <p>・特別活動授業づくり研修会 10/25(火) ・算数、数学授業づくり研修会 11/4(金) ・社会科副読本等活用研修会 4/12(火)</p> <p>・社会科授業づくり研修会 10/26(水) ・「小学校の理科」研修会 8/5(金) ・外国語活動校内研修支援(随時) ・外国語活動の教科化に向けた研修会</p> <p>・ワークショップで学ぶ図画工作科授業づくり研修会 8/5(金) ・CAN-DOリスト作成研修会 7/26(火) ・ESD研修会 11/8(火)</p> <p>・「総合的な学習の時間」研修会 12/1(木)</p>					

④経費	＜会計種別＞	一般会計	平成 26 年度 (千円)	平成 27 年度 (千円)	平成 28 年度 (千円)	
	予算現額		494	340	98,497	
	決算(見込み含む)		494	340		
	(非常勤特別職員) (臨時任用職員)	(人)	(人)	(人)	(人)	※「財源内訳」について平成28年度のみ、当初予算の内訳となっています。
	正規職員人件費	1.11 人	9,680	0.86 人	7,448	
	事業費合計		10,174	7,788		
財源内訳	一般財源	10,174	7,788	98,497		
	国・県支出金					
	その他()					

⑤実績	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	H28見込み	将来目標	
	活動実績	研修会参加者数	研修会参加者数	人	679	606	650	700
		教育インターンシップ	受け入れ校	校	2	2	4	10

⑥成果	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	H28目標値	将来目標	
	成果指標	ステップアップ調査アンケート結果(中学1年・2年次4月、中学3年次11月)	アンケートの結果で「よくわかる」と「大体わかる」の合計	%	目標値	70	70	70
					実績	50	53	<input checked="" type="checkbox"/> 「実績」拡大図 <input type="checkbox"/> 「実績」縮小図
目標達成状況	どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています	%	達成率	71	76	↑どちらかをチェックしてください		

⑦改善点	(1)平成27年度中に改善した点(改善内容・その結果について記載してください)	(2)平成27年度成果指標の目標値が未達成の理由・分析
	次期学習指導要領改訂に向けての方向性を踏まえ、文部科学省教科調査官を招聘し、教科化される道徳や小学校の外国語活動についての実践的な研修会を実施した。また、学習院大学教授 佐藤学氏を招聘し、「学び合いの授業づくり研修会」を行い、思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業改善についての講演会を実施した。	アンケート結果を見ると、学年が上がるごとに「よくわかる」「大体わかる」と回答した割合が減少している。教職員は日頃から指導方法等について工夫改善を図っているところではあるが、学習の難易度が上がっていくことから、「難しい」とらえている児童生徒が増加したため、未達成であったと捉える。

⑧評価	評価	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 終了	事業実施方法(複数選択可)	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> その他	理由	研修は教育公務員の権利であり、義務であるが、教員の多忙感を軽減する視点も踏まえて効率化を図っていく。また、各研究部での研究は先進的なものではあるが、より実践的で学校現場ですぐに活用できるものとなるよう、さらに効果的な研修を実施していく。
	次年度予算		<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	理由	学力向上は各学校における最重要課題となっており、教員の授業力の向上は、児童生徒の学力に直結するため、特に教科の専門性を高める研修とともにすべての教員が一定水準以上の指導力を身に付けるためのライフステージに応じた研修を実施する。	
	評価日	H28.8.15	評価者職氏名	所長 米澤 三八子		
⑨価値	(1)平成28年度に取り組んでいる状況			(2)今後の方向性		
	〇所沢市が行っている「学び創造プラン」に基づき、研究委託校の校内研修をサポートする「学び創造推進研修」を新設した。〇児童生徒の学力向上のために、教員の資質向上が不可欠であるため、参加体験型研修(ワークショップ)や授業研究会を実施し、授業改善への具体的な手立てを学べるよう研修内容の充実を図っている。			〇若手教員が急増している現状を踏まえ、ベテラン教員の知恵を継承していく校内研修やOJTの支援体制の充実を図っていく。〇各種学力調査等を分析し、所沢市の実態を踏まえた学校課題解決に直結する研修を一層推進する。〇大学教授等の第一線で活躍する指導者から直接学ぶことのできる研究員制度を継続し、先進的な取組を市内に広めていく。		

⑨環境影響	有益な環境影響	有害な環境影響を及ぼす原因活動	資料の作成	規制を受ける環境法令等	無
				緊急事態	無